
研究企画管理室の役割

1等空佐 渡邊 健治

1. 扇の要

防衛力の役割及び航空自衛隊（以下「空自」という。）の取り巻く環境の変化に対応するとともに、研究開発に関する様々な問題意識を踏まえ、航空研究センター（以下「センター」という。）が新設された。そこには一元的な研究体制を構築し、防衛方策研究としての部隊等の運用等に関する調査研究機能を強化する狙いがある。センターは、空自の知的基盤として航空防衛力の整備・運用に資する研究態勢を構築するため、研究企画管理室、ドクトリン研究室、戦略理論研究室、事態対処研究室を置いている。その中で研究企画管理室は、研究に関する企画調整、各研究室の研究業務の統括を始めとする重要な役割を担っており、正に「扇の要」としての位置にある。研究企画管理室の活動は、これからのセンターの充実・発展において重要な役割を果たすと考えられ、研究企画を進める上で将来を見据えた展望が必要となる。

2. 研究企画管理室の役割

研究企画管理室は、研究企画管理、対外発信及び知的資産管理という3つの役割を担当する。

第1は研究企画管理である。各研究室が組織的、効果的に研究業務を実施できるように研究企画及び立案並びに調整業務を実施する。まず、

センターとして研究を進める全体の方向性について示すことである。そのため、空自が必要としている研究の所要を明確に把握し、その要求に基づいた研究の実現を図る。その際、航空幕僚監部との綿密な企画調整に配慮することである。次に、センターの研究の質の向上を図る狙いから空自以外の知見の活用を進め、部内外の研究機関等とセンターとの共同研究のほか、セミナー、シンポジウム及び各種研究会等の開催に関する企画調整を行う。

第2は対外発信である。センターの研究内容や空自の施策に対する理解を促進するため、また、部内外研究機関等との協力関係の構築を図るために対外発信を行う。具体的には、セミナー、シンポジウムへの参加を促進するとともに、定期刊行物、ホームページ等により幅広くセンターの情報、成果等を研究機関等に対して発信する。

第3は知的資産管理である。各研究室の研究活動によって得られた様々な成果やその資料を、知的資産として一元的に集約し、管理する。それにより、各研究室が他の室の研究内容に容易にアクセスできることとなり、相互に活用できる態勢を構築するものである。将来的には、部隊等が活用する際の利便性確保のため、空自内の知的資産（部隊等の成果報告や教訓等）も併せて整理し、分類して蓄積する。さらに、発展的な研究を実施するため、空自内の知的資産の検索、閲覧等を可能とし知的資産の共有を図るよう整備していく。

3. 研究企画管理室の将来への展望

(1) 研究企画管理室の目指すもの

前述したように研究企画管理室は「扇の要」という重要な役割を担っている。その目指すところは、センターを「内外に開かれた組織」に導くことである。開かれた組織となることによって、他の機関等から多くの情報が入手でき、その情報を活用した成果も期待できる。さらに、取り巻く環境の変化を敏感に感じ取り、自らの進むべき方向等も明らかになる。開かれた組織にすることで自らの組織の質を高め、内外に情報を

発信し、同時に外部の知識や情報を取り入れることから得られる相乗効果により、センターの研究能力向上が期待できる。この相乗効果を生み出す原動力となることを研究企画管理室は追求していく。

(2) 実現に向けての取り組み

センターを「内外に開かれた組織」とする将来展望を実現するために、研究ネットワークの構築と知的資産管理の充実、さらに、積極的な対外発信を当面の目標とする。

本センターは、現在のネットワーク社会の中において、我が国唯一のエア・パワーに関する研究機関としての役割を求められる。したがって、研究ネットワークに関しては、いかに幅広く構築できるかが極めて重要になってくる。部内外機関等の知見の活用、相乗効果による研究の質の向上、さらに、空自の施策の理解を得るため、いわば部内外研究機関等との「知のネットワーク」の構築を進める。特に部外研究機関等とのネットワークにより、エア・パワーに関する知見を外の世界からも吸収することができ、より斬新な考えを我々の組織に取り込むことが可能となる。したがって、ネットワーク構築による部外研究機関等との密接な連携は、センター発展の大きな助けとなる。

同時に必要となるのは、知的資産管理の充実である。知的資産管理のため直ちに着手することは、態勢（体制）を速やかに構築し、センター及び部隊等で行われた各種研究の成果を一元的に集約することである。多くの「知」を埋もれさせることなく、無駄なく活用し、その上に新たな成果を築き上げることにより、効率的かつより高いレベルの研究が可能になるものと考えている。

最後に、センターを「内外に開かれた組織」とする上で、積極的な対外発信に係る活動も必要不可欠である。研究成果の発信の他、創刊号として発刊した本誌『エア・パワー研究』に代表される定期刊行物、あるいはホームページ等によって、広くセンターの活動とその成果を部内外に発信するとともに、エア・パワーに関する部内外の議論を活性化し、それをリードする存在となることを目指す。

これらの目標を達成するために、研究企画管理室は、センターのアンテナとして全周にセンサーを張り巡らせ、研究に係る情報を積極的に収集し、適時適切な研究成果をユーザーに送り届けられるように活動していく考えである。

4. おわりに

センターの充実を目指して、研究企画管理室の将来への展望を述べた。繰り返しになるが「内外に開かれた組織」になることが、この組織の発展の鍵である。「扇の要」として、研究企画管理室の活動にセンターの未来がかかっているという重責を自覚し、任務遂行に邁進^{まい}していく。